

# 令和4年9月台風第14号洪水の概要

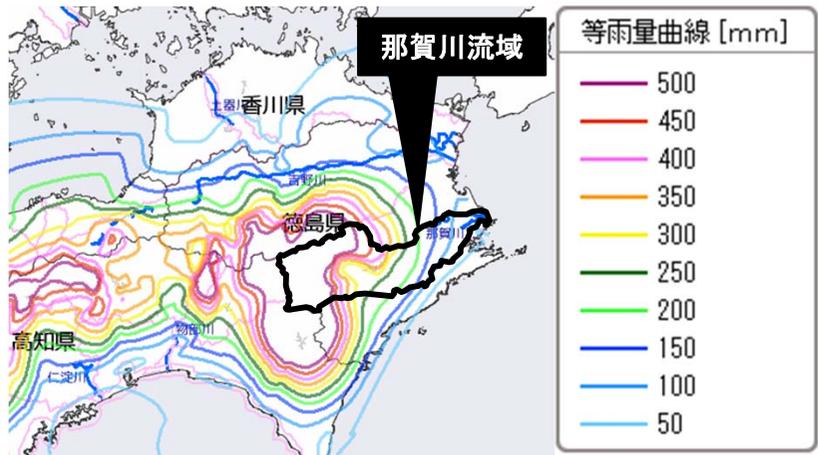
令和4年9月  
那賀川河川事務所

※本資料における数値は速報値に基づくものがあるため、後日変更になる場合があります。

# (1) 気象の概要について

- 9月14日3時に発生した台風第14号による影響で、徳島県内では大雨となり、17日3時から20日5時までの総降雨量は、那賀町木頭和無田で469.5mm、三好市京上で415.5mm、上勝町福原旭で353.0mmを観測。
- 17日3時から20日5時までの期間において、長安口ダム上流域平均雨量の総雨量が約550mmを観測。
- 古庄水位観測所のピーク水位は、19日16時に4.33mを観測。
- 河川の水位は水防団待機水位を超過したものの氾濫注意水位は超えず、那賀川において外水による被害は確認されていない。

■ 台風第14号等雨量線図



データ種別：テレメータ雨量  
表示地域：四国  
累加時刻：2022/09/17 03:00～2022/09/20 12:00  
累加時間：81時間

■ 台風第14号進路図

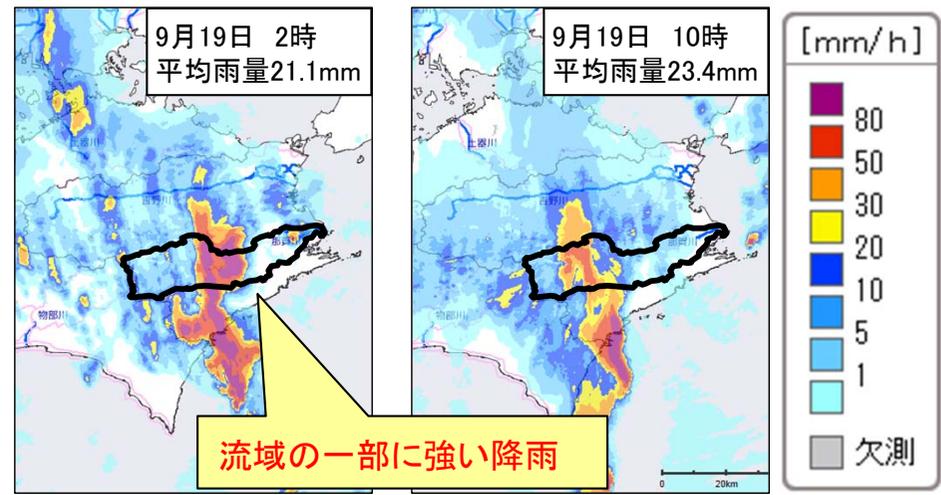


出典：気象庁HP

■ 古庄地点(9月19日16:00\_水位4.33m)



■ 台風第14号における那賀川水系那賀川の状況(雨量レーダ画像)



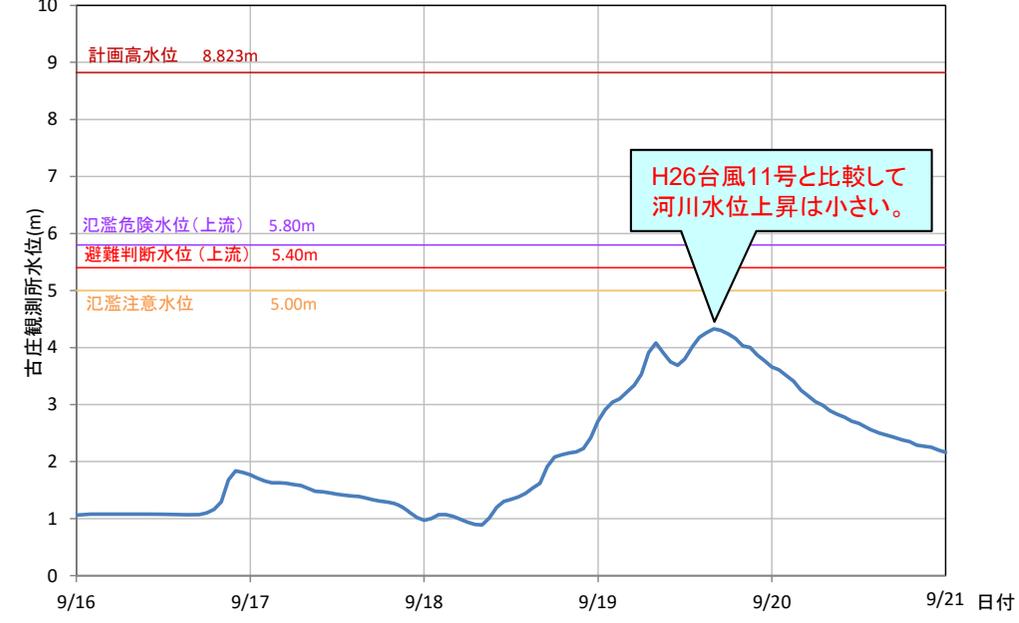
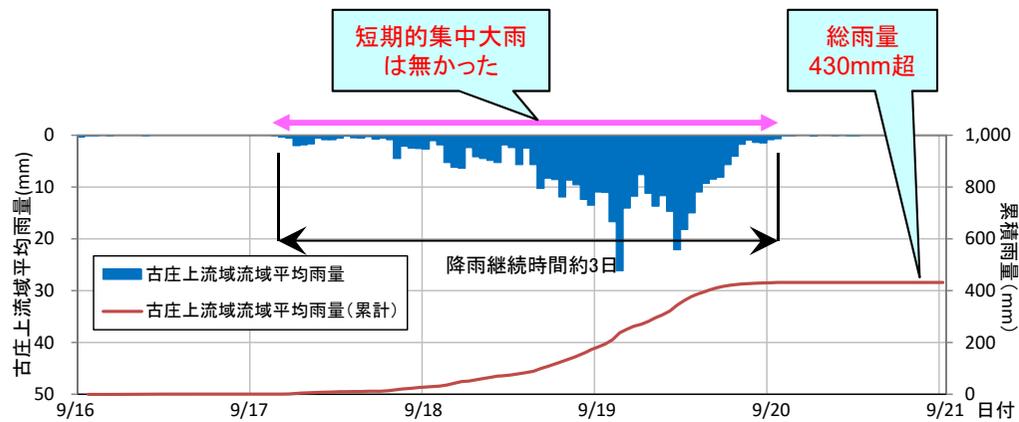
■ 古庄上流域平均雨量、古庄水位



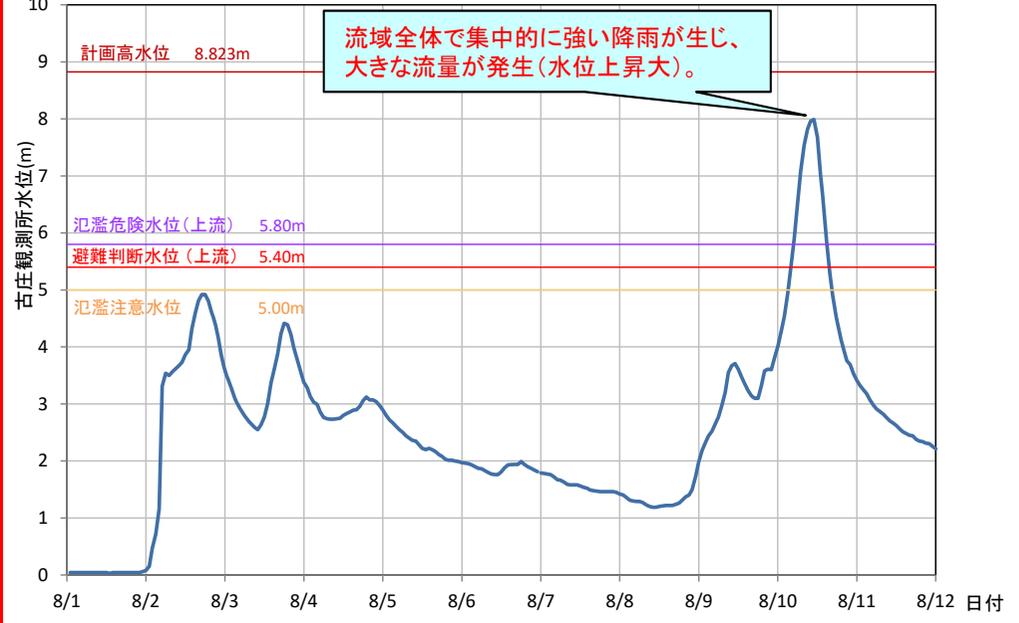
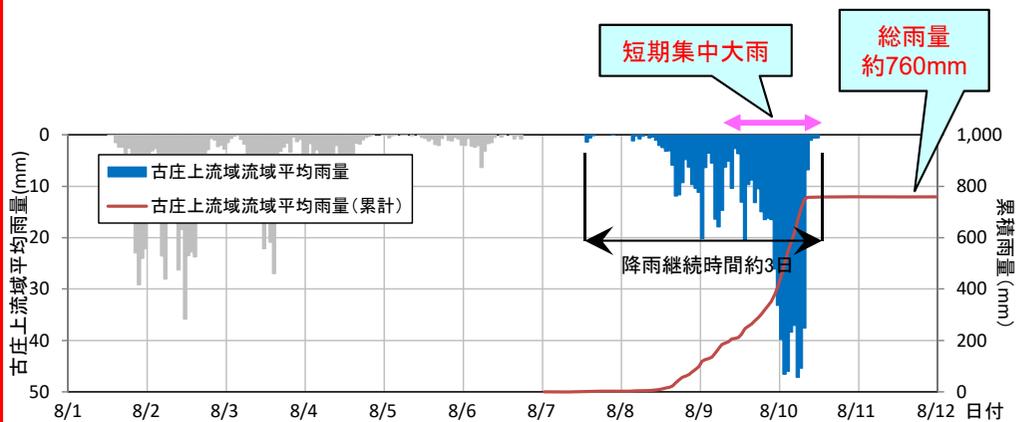
# (1) 気象の概要について

● 令和4年台風第14号の降雨継続時間は平成26年台風第11号と同程度だったが、流域全体で集中的な強い降雨ではなかったことや、短期的集中大雨が発生しなかったこともあり、大きな流量が発生することも無く、河川水位の上昇は小さかった。

今回(台風第14号洪水:9月16日~21日)

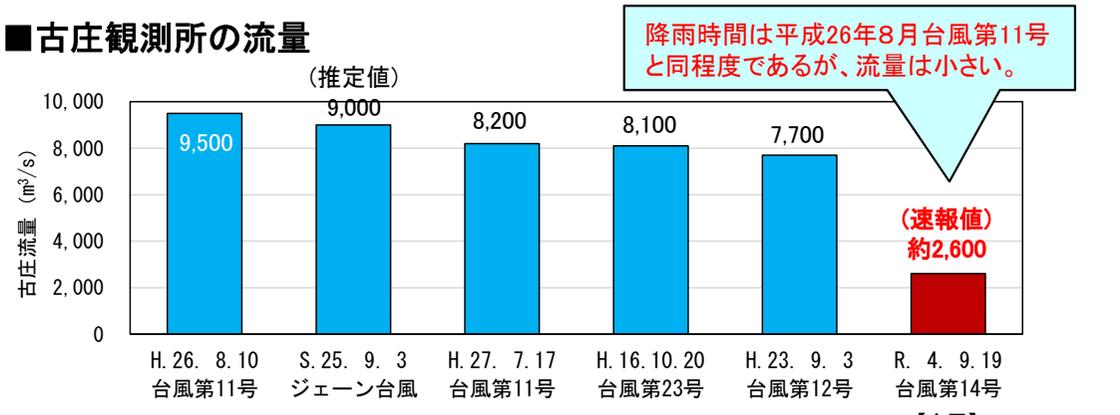
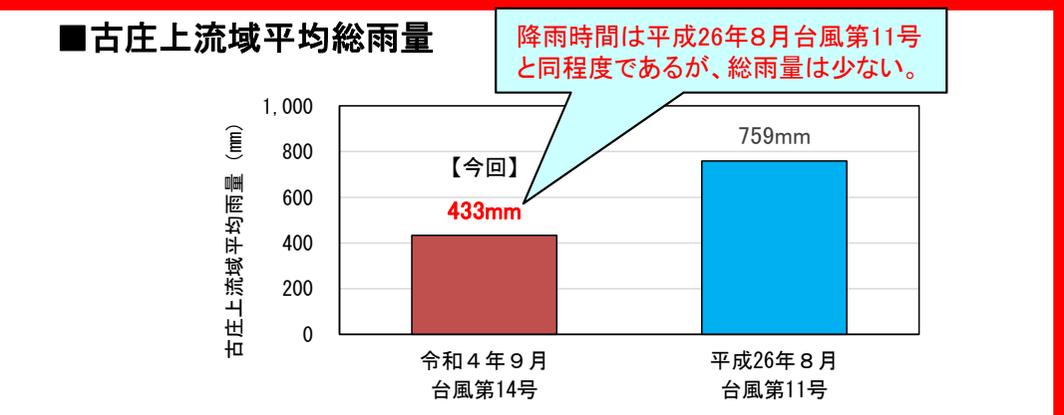


平成26年8月台風第11号洪水



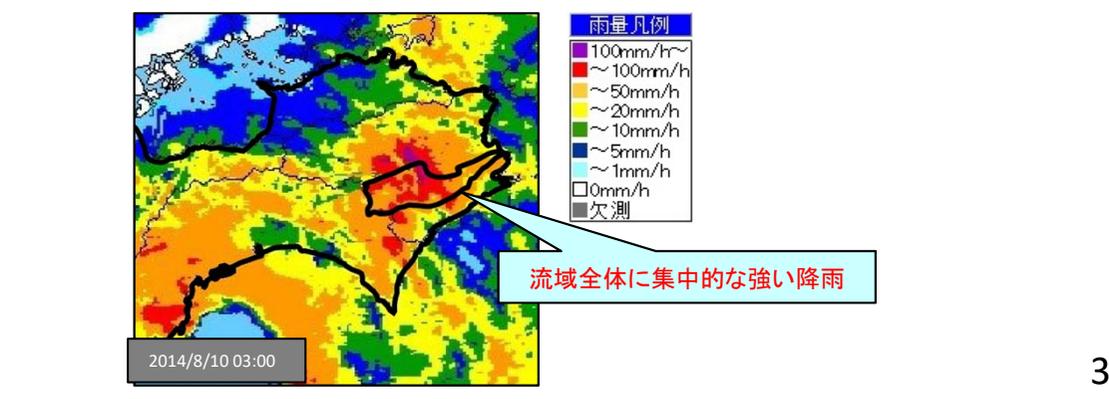
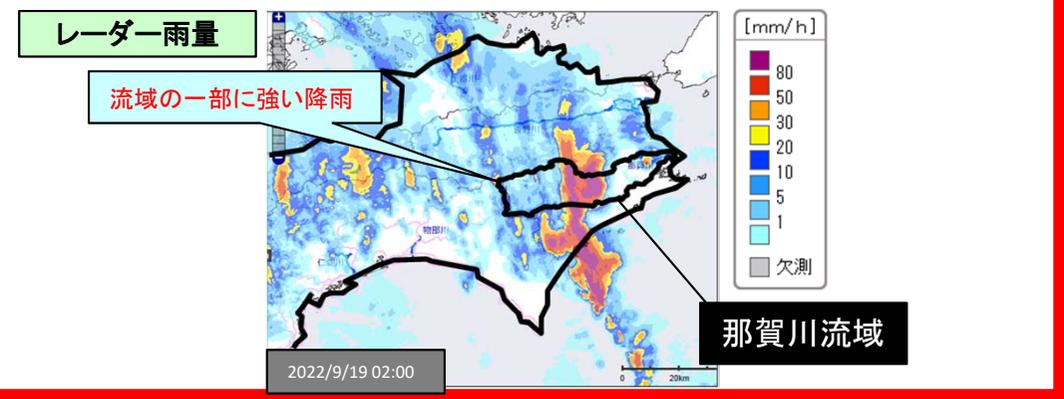
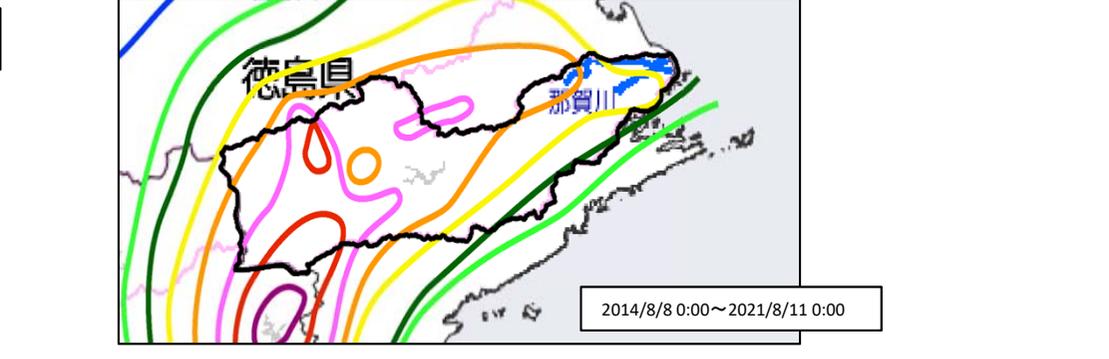
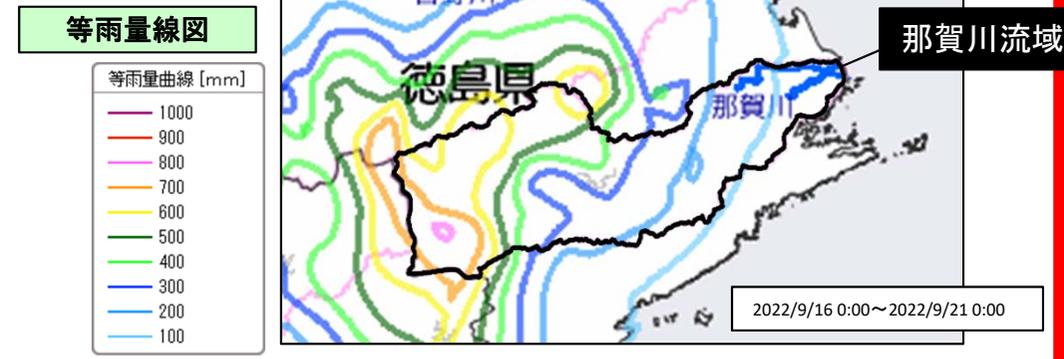
# (1) 気象の概要について

● 台風の来襲等により流域全体で集中的な強い降雨があった場合には、降った雨は一気に川に流れ出て大洪水となる危険な状態にあり十分な警戒が必要。



今回(台風第14号洪水:9月16日~21日)

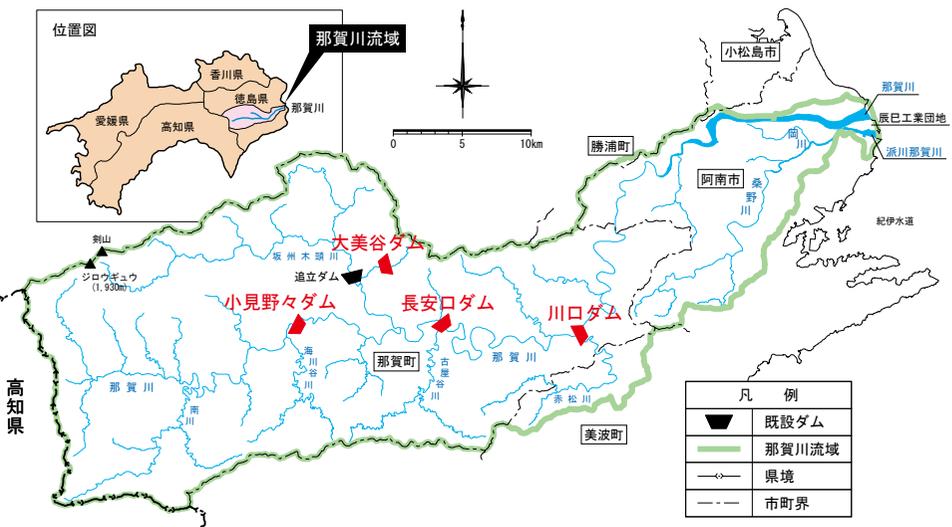
平成26年8月台風第11号洪水



# (2) 台風第14号での取組及び事業の効果

- ①: 長安口ダム、小見野々ダム、大美谷ダム、川口ダムの4ダムにおいて、9月16日12時から一斉に事前放流を開始し、17日14時40分までの約27時間で、従来容量(1,200万m<sup>3</sup>)に対して約2.2倍となる約2,580万m<sup>3</sup>の洪水調節可能容量を確保した。  
 なお、9月22日17時現在で、事前放流した水は回復済み。
- ②: 深瀬、加茂地区では、強風対策として事前に排水ポンプ車を配備し洪水に備えた。
- ③: 那賀川床上浸水対策特別緊急事業(加茂地区)で整備した堤防により、外水による浸水被害を防いだ。

## ①事前放流



## ②排水ポンプ車の事前配備

※写真は深瀬地区の配備状況



## 長安口ダム放流状況



## 長安口ダム予備放流完了



## 長安口ダム事前放流完了



## ③加茂地区堤防整備

令和4年5月

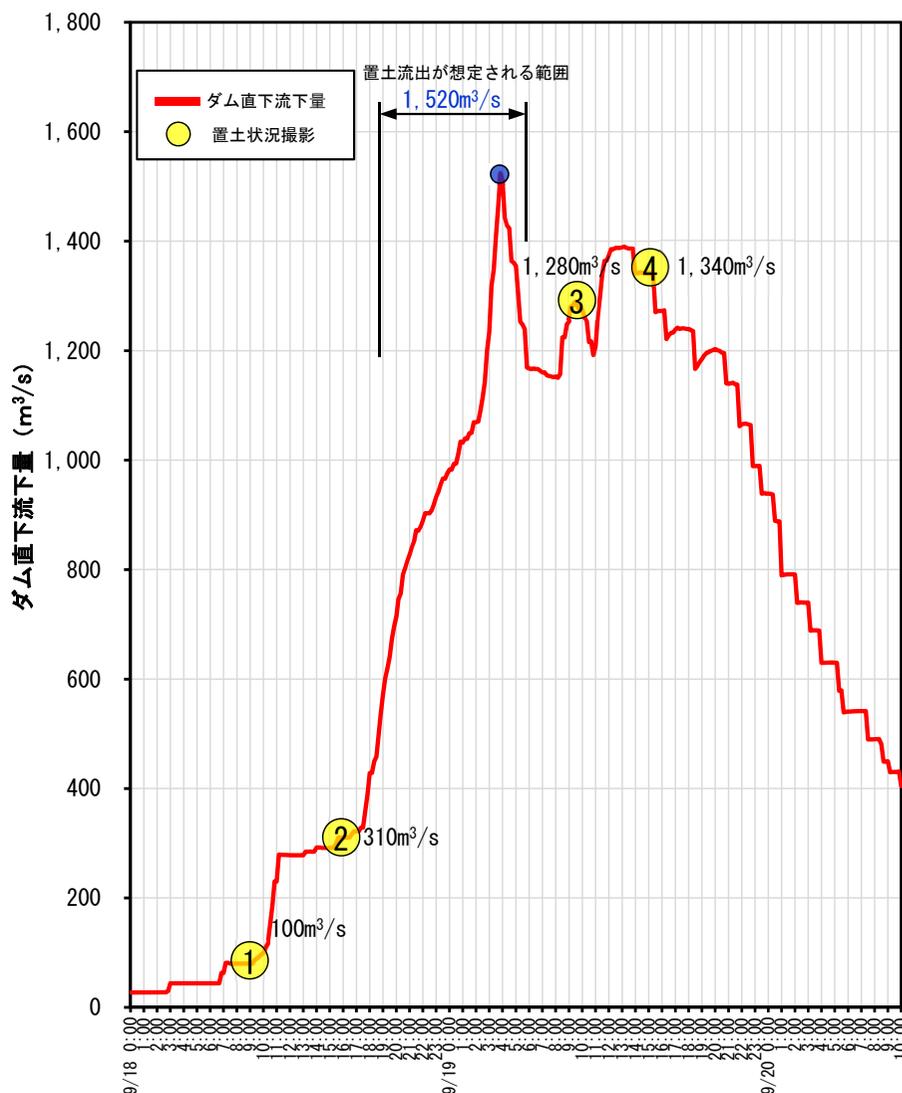


ダム名	管理者	諸元等		
		洪水調節容量 (A)	洪水調節可能容量 (B)	合計
長安口	四国地方整備局	1,200万m <sup>3</sup>	640万m <sup>3</sup>	1,840万m <sup>3</sup>
小見野々	四国電力(株)	0万m <sup>3</sup>	620万m <sup>3</sup>	620万m <sup>3</sup>
大美谷	四国電力(株)	0万m <sup>3</sup>	30万m <sup>3</sup>	30万m <sup>3</sup>
川口	徳島県企業局	0万m <sup>3</sup>	90万m <sup>3</sup>	90万m <sup>3</sup>
合計		1,200万m <sup>3</sup>	1,380万m <sup>3</sup>	2,580万m <sup>3</sup>

# (3) 台風第14号に伴う置土流出について

- ①：9月18日 10:00時点、流下量 100m<sup>3</sup>/s (置土に大きな変状なし)
  - ②：9月18日 16:00時点、流下量 310m<sup>3</sup>/s (置土に大きな変状なし)
  - ③：9月19日 10:00時点、流下量 1,280m<sup>3</sup>/s (置土下流法面に崩落、上流端に侵食)
  - ④：9月19日 15:00時点、流下量 1,340m<sup>3</sup>/s (置土下流法面に崩落、上流端侵食拡大)
- また、ダム直下最大流下量は約1,520m<sup>3</sup>/s (9/19 3:50時点)であった。

令和4年9月 台風第14号ハイドログラフ(ダム直下流下量)



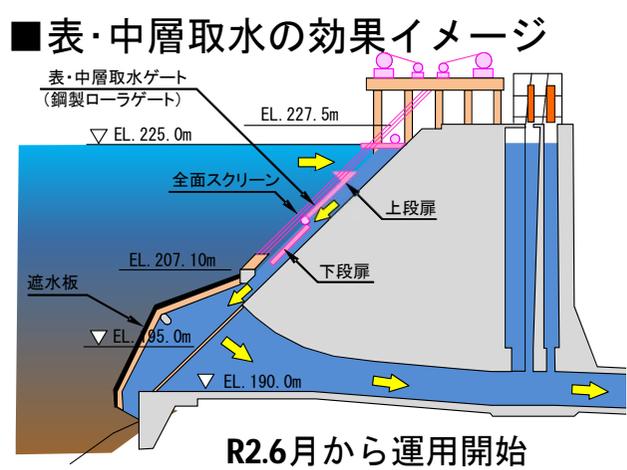
### (3) 台風第14号に伴う置土流出について

・ゲート放流によりダム直下の置土が9月18日19時～9月19日6時（ $570\text{m}^3/\text{s}$ ～ $1,170\text{m}^3/\text{s}$ ）の間に流出したと考えられ、その合計は約 $6\text{万m}^3$ であったと想定される。

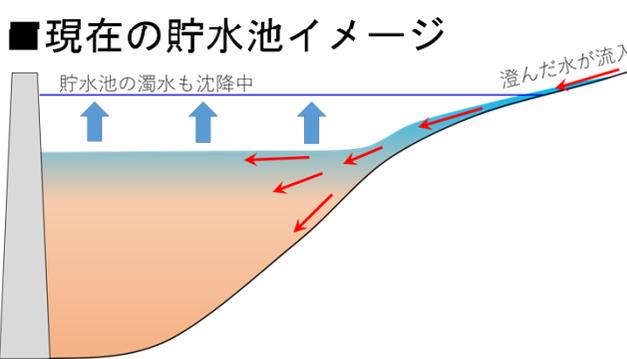


# (4) 選択取水設備の効果

- ①: 選択取水設備は貯水池内の表層・中層・低層から、比較的濁度の低い層の水を選択取水することにより、下流河川の濁水長期化を軽減させるもの。
- ②: 現在 (R4. 9. 26時点)、ゲートからの放流が終了。出水直後は、日野谷発電所放流水も濁っていたが貯水池内の細粒分の沈降が進み表層取水に切り換えたことにより下流河川への影響が軽減されている。



貯水池内の細粒分が沈降する間も清水放流が可能となる。



1,500m<sup>3</sup>/sを超える出水により貯水池内は一様に濁りが発生したが、表層から澄み始めている。

